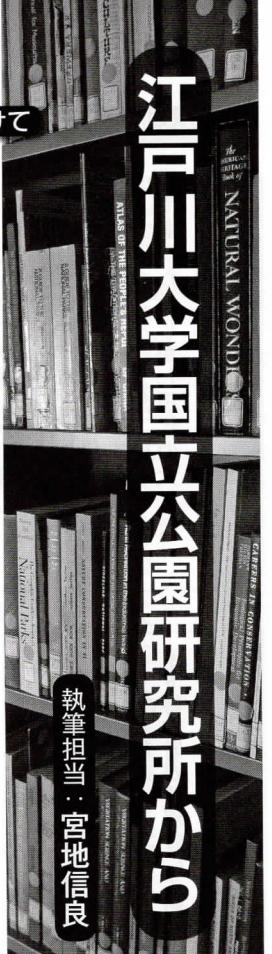


# 江戸川大学国立公園研究所から



執筆担当…宮地信良

連載第35回・新たな自然公園利用の具体化を考える一公園法改正を受けて

## 公園利用を取り巻く 状況の変化

令和二年に発表された「今後の

自然公園制度のあり方に関する提  
言」でも触れられているとおり、  
地方の過疎化、都市への人口集中、  
少子高齢化とデジタル化の進展と  
いう現在の社会情勢の変化の中で、  
令和三年に利用の質の向上を主眼  
とする自然公園法の改正が行われ  
た。

これによつて、例えは施設を伴  
わない自然体験活動、有料だが上  
質な歩道、ガイドが付かなければ  
入れない森……といった新たな利  
用手法に道が開かれたといつて良  
い（このあたりの詳細については  
国立公園雑誌No.七九五「江戸川大  
学国立公園研究所から（中島慶  
二）」を参照されたい）。提言や法  
の改正によって「容れ物」は用意  
されたわけだが、そこに盛る「料  
理」を考えるのはこれから仕事  
である。ここでは日光国立公園を  
例に、新しい「料理」を二つほど  
提案してみたい。

## 新しい利用形態①

「自然の中でゆっくり時を過ごす」

「日本人の旅行者は一日中動き

回っている」と言わされてきたが、

最近は「自然の中で時を過ごすこ

と」自体を楽しむ人が増えつあ

ると感じている。自然体験活動と

聞くと自然観察やバードウォッチ

ング、あるいはカヤックなどを使

つたアウトドアスポーツを思い浮

かべる人が多いだろう。しかし、

考えてみれば自然の中でただゆつ

くりと流れる時間を楽しむことも

立派な自然体験活動である。国立

公園が長期滞在や高齢化への対応

を目指すならば、今後はこのよう

な利用を特に重視する必要があろ  
う。自然の中でゆっくりした時を過  
ごすには「優れた風景」と「静穏

理」を考えるのはこれから仕事

である。ここでは日光国立公園を

例に、新しい「料理」を二つほど  
提案してみたい。

場所…奥日光中禅寺湖畔・英國／イ  
タリア大使館別荘の南側一帯  
風景…風景を重視する英国人が中禅  
寺湖のベストポイントとして選んだ  
英國大使館周辺の湖畔は、白根山を  
正面に、最も奥深い中禅寺湖の風景  
が望める地点である。

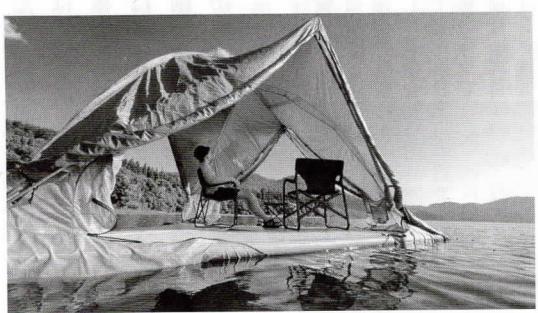
利用環境…細い舗装道路が通つてい  
るが、入口にゲートを設けて一般車  
は通行止めになつており、アプロー  
チは徒歩のみである。このことがこ  
こを魅力的な場所にしている。また  
近年、当該地に遊覧船桟橋が新設さ  
れ、船での「離島感が味わえる」來  
訪も可能になった。

### 具体化イメージ① 「中禅寺湖湖畔・リラクゼーションの浜」

事業主体と管理運営…実施主体は民  
間。各施設とも有料利用とする。



リラクゼーションテラスのイメージ



水上テントのイメージ

な利用環境」の二つが不可欠であ  
る。したがつてこれは国立公園に  
こそふさわしい利用とも言える。

本来このような利用に施設は必要ないが、新しい利用をアピールするためには注目度の高い施設を伴つた場をつくることは有効であろう。

## 新しい利用形態②

「道から外れて森を体験する」

日光は首都圏小学校の修学旅行のメッカと言われ、ガイド付きの野外活動が多く行われている。ハイキングのコースは圧倒的に戦場ヶ原湿原が多い。戦場ヶ原は観察対象が豊富で山々を見晴らす風景は優れたものであるが、木道から外れることができず、活動内容は自然観察のみになる。一方、森の中で倒木に乗ったり、冷たい水に入ったり、動物の痕跡を探したりする「森たんけん」などの体験的プログラムを選ぶ学校もある。初めはこわごわでも、終わつた後の子どもの表情を見ると戦場ヶ原よりもこちらの方が明らかに満足そうな顔をしている。

「国立公園では道から外れてはいけない」というのが今までの常識であった。しかし現代の大きな課題は、「人が入つて森を荒らす」ことよりも「自ら森に入る子ども

がいなくなつた」ことではないだろうか。国立公園には回復力のある二次林や人工林も多い。道から

外れるのもOKの森を設定し、そこでゲームやスマホ漬けの子どもたちを動かすような本物の自然を

場所…奥日光・光徳周辺の森

自然…おおむね平坦なミズナラ二次林とカラマツ人工林で、小さな湧水の流れ、水が涸れた川原、オタマジヤクシの水たまりなどが点在する。

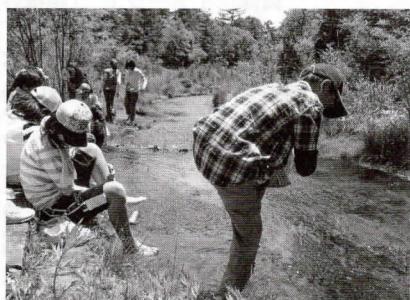
利用環境…一軒の民間ホテルがあり、周辺の森にはホテルが管理するクロカンスキーコースが設けられている。

### 具体化イメージ② 「奥日光・道を外れてOKの森」

事業主体と管理運営…森の管理は民間の事業者が行う。利用は登録したガイド事業者に限り、利用の際はガイド事業者が管理者に予約し、料金を支払う。



森たんけんのイメージ1



森たんけんのイメージ2

## 今後への課題

現在の社会情勢の急激な変化から、「風景の保護」「保健」「休養」「教化」という自然公園法にうたわれている自然公園本来の目的が一段と重要性を帯びてきた。この目的を実現する推進力ともなる新たな自然公園利用を進めるためには、官民の協働と国有林の理解が極めて重要である。今までの慣例にとらわれることなく、各地で独創的な事例を積み重ねてゆく努力が求められている。

**宮地 信良 ● みやじ のぶよし**  
環境庁（当時）で国立公園の現地管理、野生生物課勤務等のあと中途退職し、有限会社自然計画代表取締役として栃木県日光市で調査や自然ガイド業務を行つてゐる。江戸川大学国立公園研究所客員研究員、日本スノーシューアイング連盟副会長。

体で知る機会を与える。これも国立公園の新たな役割であろう。この活動には柔軟なセンスをもつたガイドが不可欠である。子どもを全確保や自然保護上も欠かすこと

はできない。  
うまくりードするだけでなく、安全確保や自然保護上も欠かすこと